

大阪府感染症発生動向調査週報 (速報)

2017 (平成 29) 年 第 40 週 (10 月 2 日～10 月 8 日)

今週のコメント

～RSウイルス感染症～ 乳幼児に特に注意 咳エチケット 手洗いの励行を

定点把握感染症

「RSウイルス感染症 減少するも依然流行」

第 40 週は前週比 3.2%減の 1,867 例の報告があった。報告の第 1 位は感染性胃腸炎で以下、RS ウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、突発性発しんの順で、上位 5 疾患の定点あたり報告数はそれぞれ 3.0、2.3、1.6、0.7、0.5 である。

感染性胃腸炎は前週比 1%増の 606 例で、南河内 5.0、中河内 4.6、泉州 3.4 であった。

RS ウイルス感染症は 4%減の 453 例の報告があった。大阪市北部 4.1、南河内 4.0、泉州 3.0、大阪市西部 2.9、中河内 2.5 と続く。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎は 10%減の 328 例で、豊能 2.7、三島 2.6、中河内 2.2 である。

手足口病は 11%減の 135 例で、北河内 1.3、中河内 1.1 であった。

インフルエンザは 104%増の 88 例、定点あたり 0.3 であった。

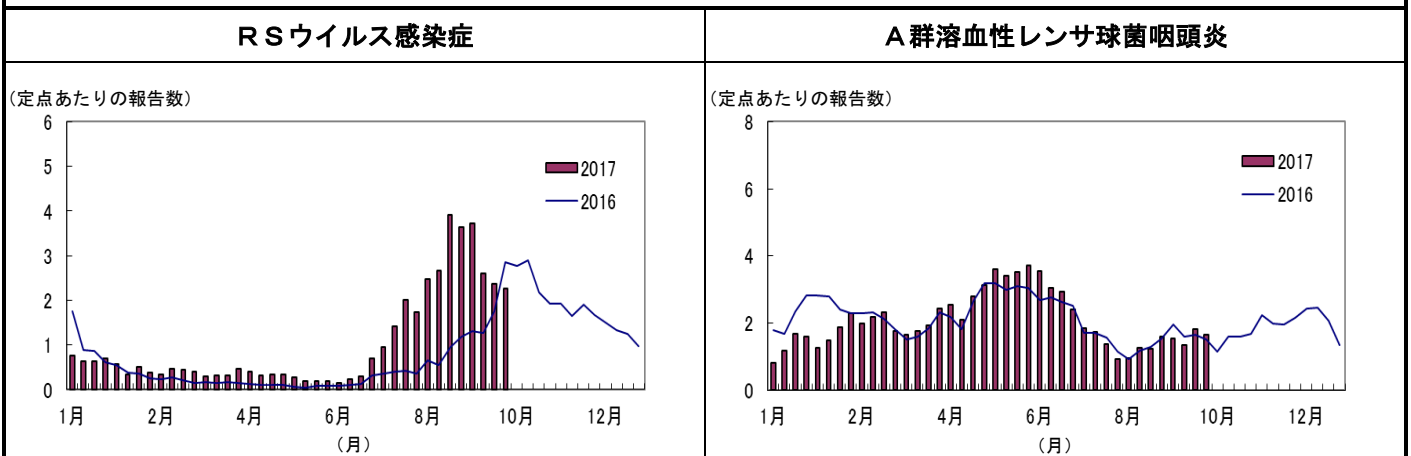


表1. 大阪府小児科定点把握感染症の動向 (2017 (平成 29)年 第 40 週 10 月 2 日-10 月 8 日)

第 40 週 の順位	第 39 週 の順位	感染症	2017 年 第 40 週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2016 年 第 40 週の 定点あたり 報告数	2017 年 第 40 週の 年齢別 患者発生数 最大割合値
1	1	感染性胃腸炎	3.0	1%増	3.5	1 歳_15%
2	2	RS ウイルス感染症	2.3	4%減	2.8	1 歳未満_37%
3	3	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.6	10%減	1.4	4 歳_16%
4	4	手足口病	0.7	11%減	1.2	1 歳_30%
5	5	突発性発しん	0.5	16%増	0.5	1 歳_49%

第 40 週のコメント

～ 梅毒 ～ 2017 年の国内の梅毒感染者は、1999 年以降、最も多く報告されています

全数把握感染症

梅毒

国内の梅毒の感染者は、2010 年より増加傾向にあり、2017 年は 2016 年を上回る勢いで報告されている。感染症法施行された 1999 年以降、最も多く報告されている。梅毒は、性行為・オーラルセックスにより、生殖器、口、肛門の皮膚や粘膜の微細な傷口から菌が体内に侵入し感染する。また、妊娠時に胎児が胎盤を介して感染し、「先天梅毒」になることがある。梅毒は、適切な抗生物質の服用で治癒が期待できる。

[感染症疫学センターはこちらへ\(外部リンク\)](#)

[感染症の話\(国立感染症研究所\)](#)

(週別報告数)

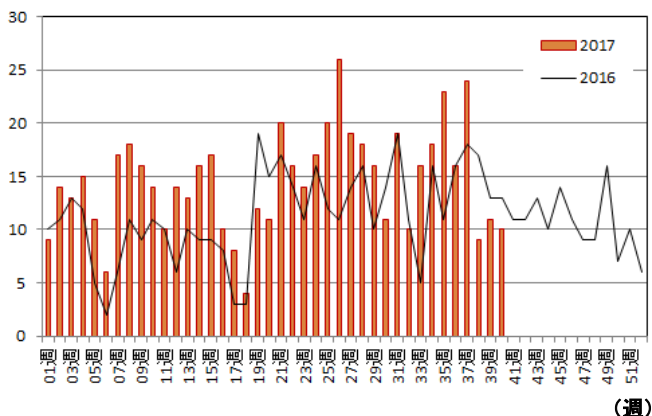


表 2. 大阪府全数報告数 (2017(平成 29)年 第 40 週 10 月 2 日 - 10 月 8 日)

*) 注意 : この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります

3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 3 名 (堺市 1 名、大阪市 2 名、 府内累積報告数 145 名)
4 類感染症	報告はありません
5 類感染症 (麻しん、風しんは 除く)	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 1 名 (堺市 1 名、府内累積報告数 105 名) 急性脳炎 1 名 (泉州ブロック 1 名、府内累積報告数 33 名) 後天性免疫不全症候群 2 名 (大阪市 2 名、府内累積報告数 138 名) 侵襲性肺炎球菌感染症 1 名 (南河内ブロック 1 名、府内累積報告数 191 名) 梅毒 10 名 (大阪市 10 名、府内累積報告数 581 名)
結核 (2017 年 8 月分)	結核 新登録患者数 : 153 名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 56 名) (府内累積報告数 1279 名、内 肺・喀痰塗抹陽性 526 名)
麻しん、風しん	報告はありません

(2017 年 10 月 10 日 集計分)